

# 多摩デポ通信 第28号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2013年10月31日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一-三一-一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

●留守電&FAX 042-484-3945

## 除籍本の横断検索と

### 里親探し事業を実施

多摩デポは7月に東大和市立図書館の依頼で、除籍候補資料の多摩地域での所蔵状況を調べました。同市ではその結果を元に（他では所蔵していないか一冊しかない本）は除籍せず、所蔵し続ける判断をしました。一方、何市かは所蔵して

同市の了解のもとに必要と思われる館にご案内し、応募のあった館に4冊の本を手渡すことができました。

### 検索ボランティア

#### 事前登録者を募集中

多摩地域の図書館の蔵書の多様さと質を維持する、除籍の際の他自治体所蔵調査と図書館資料の里親事業。多摩デポには検索ボランティアの力が必要です。ぜひボランティアとして事前登録しておいてくれませんか。メールください。

## 今年も都立図書館5万冊の「払下げ」

雨谷逸枝（投稿）

9月末、東京都立中央図書館長から勤務先の図書館に「都立図書館所蔵資料の提供について（通知）」との文書が届いた。「書庫有効利用の観点から同一資料は1点のみ保存する方針により、複数所蔵する資料について除籍を行っている。除籍した資料と寄贈未受入資料について提供するので譲渡希望があるなら申込むように」との内容で、歴史・社会科学の単行書を中心に全分野の約52,400冊が対象である。

都内の公立図書館と都立学校に宛てた通知で、希望館は10月中旬から11月下旬の間に中央図書館に行き、抜出・梱包・搬送手続きをするようにとのこと。梱包材の調達を含め、経費と手間は全て受取希望館の負担。ここ数年間同様の通知が届いており、ルーティンの業務になっているようだ。

5万冊は公共図書館でいえば分館1館、都立高校では2校分の蔵書に匹敵する数だ。都立図書館でも年月をかけて収集したものだろうに。リストをざっと見てみた。

歴史分野では『福島県史』『宮城県史』『遠野市史』などの地方史、『大日本史料』『大日本古文書』『江戸町触集成』など大部の資料、『坂本太郎著作集』など全集類が目白押しで、今世紀に入ってから刊行物も含まれる。

引き取り手がなかった場合、震災の被災地への働きかけ等はするつもりというが、残りは中国へ寄贈という。これほどの規模の資料を、もう少し丁寧に扱うことはできないのだろうか。大部分は都立多摩で協力貸出に使われていた資料のはず。中央図書館の資料との状態比較はしたのだろうか？区市町村との複本調査はどうだろうか？

疑問が膨らむと同時に、多摩デポで書庫を持ってきてくれている、とも思う。

# 市川房枝記念展示室 ・ 図書室見学会

同施設の見学会を8月29日(木)に第18回多摩デボ講座として実施した。参加は14名。生前の市川房枝氏と何らかの関わりがあった会員や図書館関係者、そして女性が多かった。

婦選会館に以前はよく通っていた方でも書庫の中や保存資料を見る機会はこれまででなかったそうで、今日は有意義との感想があった。戦前からの多くの資料が保存されていたが、ある時期から国立国会図書館退職者の方がボランティアで手がけるようになって、資料が系統立てて整理され、保存状態にも気が配られるようになっていた。そのことには以前を知る方からも、強い賞賛の声が上がっていた。



持続する志  
展示室・図書室見学記

若杉美智子

市川房枝図書室に以前から行ってみたいと考えていたのですが、いつかいつかと先延ばしにしておりました。思いがけず矢崎省三さんから見学会のご案内をい

ただき幸運でした。

私の記憶する市川房枝は、年輪をきざんだ顔、お洒落とは言いがたい実用的な眼鏡、顔をふちどる白髪、渋い声とざつくばらん話仕方などです。そう、晩年の姿なのです。ところが、このイメージは展示室に入っ

てすぐに覆りました。展示の最初に小学校時代の写真があり、そこに写っていたのははち切れんばかりに健康そうな丸顔の少女でした。市川は、愛知県の農村に農家の三女として生まれました。農繁期には学校を休まざるを得なかったそうです。当時としては珍しくないの

びアメリカに渡るなど、波瀾万丈です。その市川の足どりが、写真や資料と年譜を関連づけて長尺の絵巻のように展示されています。信念を貫いて凛として生きた87歳9ヶ月をビジュアルに辿ることができ、興味深い展示でした。

婦選に果した市川の功績は言うまでもないことですが、もう一つの業績は、太平洋戦争末期、婦選獲得同盟の資料を都下川口村(現八王子市)へ疎開させ空襲から守ったことだそうです。この事実は記念会でうかがうまで知りませんでした。見学会では、収蔵書庫もみせていただきました。疎開資料だけではなく、戦後の市川の活動を跡付ける多くの資料があります。日記、会計簿、市川宛書簡など、貴重な生資料の数々です。文字通り山のような資料を整理しているのは、ボラン

ティアの方々（当日作業されていたのは女性ばかりでした）です。手書きの資料を丁寧に読み解いて入力作業を続ける皆さんの努力に敬意を払います。こうして市川の意志が受け継がれ持続しているのだと感じました。

軍国主義の時代、市川でさえも大日本言論報告会の理事に連なりました。そうせざるを得なかったのだと思います。敗戦後、心ある人々は、抵抗もできないまま戦争になだれこんだあの時代に戻るまいと決意し力を尽くしました。が、今空気が変わりました。感じている人も少なくないでしょう。だからこそ、先人の苦闘を知ることが必要なのだと思います。市川房枝記念展示室と図書室の存在意義は大きいと思います。できればもう一度ゆっくり展示室を見て、あらためて市

川房枝の生きた時代を学びたいものと思っています。

多摩デポの皆様、当日ご案内いただいた山口、枝松お二人の国会図書館OGに感謝いたします。

（元私立大学

図書館司書）



## 多摩デポブックレット

2冊同時に刊行！  
会員には同封しました

### ●ブックレット8号

『被災資料救助から考える資料保存——東日本大震災後の釜石市での文書レスキューを中心に——』

青木睦・著

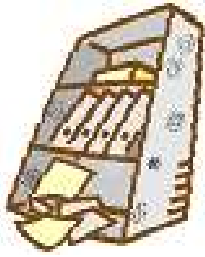
国文学研究資料館の青木先生は、史料管理学を専門に実績を重ねておられる方です。2011年3月の東日本大震災発生後は間髪入れず現地に赴き、文書の救助に当たられました。被災資料は、救助してもその後利用できるようになるまでには息の長い手当が必要です。先生たちの努力によっ

て、阪神淡路大震災以後、文化財に指定されている資料や歴史史料と認定された資料だけでなく、民間資料も公的な救助の対象になったことを知ることができました。東日本大震災ではまたひとつ範囲が広がり、公文書も救助対象にすることができたということです。

多摩デポ講座でのご講演は2012年2月25日でした。超多忙の中で時間を割いていたいただきましたが、その後も精力的に活動を継続されています。国文学研究資料館の紀要に「東日本大震災における被災文書の救助・復旧活動」という詳細な報告を発表されていますが、学術論文ということもあり、ちよつと取っつき難い。その点、このブックレ

ットでは平易な言葉を用い、  
装備さえ整えれば、誰でも  
が救助作業の一翼を担える  
ことを教えてくれます。

多摩デポ会員の中にも、  
ボランティアとして青木先  
生と作業を共にしている方  
が何人もいます。このブッ  
クレットを手にして、さら  
に多くの方が作業に加わっ  
てもらえれば、というのが  
先生の願いでもあります。  
是非お読みください、  
何かできることがないかと  
思いを巡らせている周りの  
方にも薦めていただきたい  
一冊です。



## ●ブックレット9号 『電子書籍の特性と 図書館』

堀越洋一郎・著

私達は既に誰でも「電子書  
籍」を利用する時代に入っ  
ています。たとえ読書用端末を  
手に電子コンテンツを画面  
で読書するという流儀には  
不慣れな人でも、インターネ  
ットから長文の記事や文章  
をパソコンに引いて読むこ  
とは日常のことになりました。  
いまやケータイも持ち運  
べる電話というよりは手軽  
にメールを送受信する道具  
になっています。

そんな電子的に文を書き  
送受信し再現し、読むことが  
普通になった時代に、これま  
での「紙の本の文化」や図書  
館に敬意を持つ堀越さん（元  
編集者でデータベースの仕  
事をされてきた）が、電子書  
籍の歩みと特性、優れた点

（不自由な点）、そして図書  
館との関わりについて、具  
体例を豊富にあげながら教  
えてくれます。

本作りは今では、著者が執  
筆するのも出版社が編集す  
るのもパソコン画面上の作  
業のようです。どんなデザイ  
ンで紙面に定着し製本する  
か、最後の出力だけが現在で  
は「紙の本」の形を守ってい  
ます。「紙の本」は読みやす  
く、洗練され安定し、捨てが  
たい。でもその周囲は、ダイ  
レクトに端末やパソコンに  
文章を取り込み利用する時  
代だったと気がつきます。

8月に亡くなり多くの追  
悼記事が出た富田倫生さん  
が切り開いた、無料のインタ  
ーネット図書館「青空文庫」  
のことや、多摩デポ顧問津野  
海太郎さんの業績にも触れ  
ています。（これを期にパソ  
コンを繋いで、死亡の翌日に  
「青空文庫」で公開された富  
田さんの主著『本の未来』に

触れてみるのもいいかもし  
れません。）

一方で、図書館という伝統  
的な仕組みに電子書籍をど  
う組み込むことが出来るの  
か。図書館の論理に照らし  
て飛躍の可能性とも異物と  
も見える電子書籍。ここで  
ちぢこまるのでは、図書館  
は未来を狭めてしまいます。  
図書館はどんな取り組みを  
する必要があるのか。

同時代の誰もが、断片的に  
は見聞きしてきた30年の電  
子化の過程を整理し、図書館  
と現在の「本の文化」を考え  
るヒントをもらえます。蔵書  
の保存運動をする多摩デポ  
にとっても意義ある一冊。





## 五味正彦氏追悼

堀 渡 (投稿)

9月24日に荻窪の東京衛生病院ホスピスで賛助会員五味正彦さんが逝去されました。五味さんは1970年に仲間達とミニコミや非流通出版物を売る(取次に頼らない)模索舎という書店を始めた方です。持ち込まれた出版物はすべて扱う方針で『四畳半襖の下張』コピーを売り逮捕されたこともありました。そんな書店の視点から言論の自由や小出版物の流通問題に関わりました。多摩地域の図書館が発足の端緒を作った地方・小出版流通センターも模索舎メンバーが起業しましたし、吉祥寺で「ほんこミニケート社」を始めてからは図書館にマイナーな出版物を「見計らい」に持ってきてくれました(模索舎

は新宿御苑近くに健在)。

そんな五味さんが2010年7月の「多摩デポ講座」/多摩を歩いて37年半」にひよっこり登場しました。「アサヒタウンズ」の突然の廃刊を惜しみ、副編集長山田優子さんに話してもらった講座です。「学生時代の仲間だから」と懇親会でも励ましておられました。

また、昨年11月の「八王子市図書館の英断『地域資料は残った』」で、旧都立多摩の広域行政資料を一括して受入れ公開したことに注目した「多摩デポ講座」も参加され、興味深げに書庫見学をしていました。

実は、彼は都立多摩図書館と同じ建物にあり事業停止された「都立多摩社会教育会館市民活動サービスクーナー」という、(市民活動から生まれた資料)を約30年に渡り広域収集していた施設の事業を民間で再興し

ようという運動「市民活動資料・情報センターをつくる会」の運営委員をしておられ、社教会館から廃棄処分された後、運動で保管・維持してきた段ボール500箱の資料公開の仕方を模索していたのです。八王子市の書庫でも「都立多摩の行政資料650箱とはどれくらいの書庫スペースなの?」と点検をしていました。(前後して同会はこの大量資料を町田市の法政大学の大原社会問題研究所関連施設に寄託、整理中。)

彼は今年5月の総会記念講演会でも、国会図書館の蔵書の電子化・ネット公開を熱心に聴き、懇親会でもミニコミ施設の課題を率直に語っていました。同会は、多摩モノレール・西武線玉川上水駅近くに、その後収集した市民運動の会報類を主とする「市民文書館」(名称未定)をまもなく開館す

る準備中です。彼は4月末、準備のためもあり施設近くに引っ越してこられました。が、突然末期癌とわかり、あつけない最期でした。

伏せられてかマスコミにはどうやら訃報は流れずじまいです。彼自身が同時代の市民運動ビラ、ミニコミ(段ボール150箱以上)を引っ越し宅に抱え整理・公開の課題を果たさぬまま逝ったのだそうです。

五味さんが私(達)のごく近くにいたことを記憶していたと思います。



5月総会後の懇親会にて

## 多摩デポ会員

### メールリングリスト

### もっと便利に活用法

### 第2回

メールリングリスト

(以下、ML)は名前の通りメールを発信、受信するのが基本の機能ですが、その使い道は個人の手紙の電子版に留まりません。今回は、もっと使いこなす方法をご紹介します。

### ファイル添付ができます

多摩デポMLは、ファイル添付が可能な設定です。イベント情報のチラシや文書などを一斉配布するのに利用できます。

方法は一般のメール同様に、ファイルを添付すればOKです。

### ディスカッションの場

ご存知のようにMLではすべての参加者にすべてのメールが配信されます。一方方向からのお知らせだけでなく、意見交換の場としても活用できます。

「こんな情報知りませんか?」「〇〇についてご意見お寄せください。」といったように呼びかけて、それぞれの人のメールを全員で共有しながら、大勢が集まって会議をしているように、やりとりができます。

### YAHOO!IDの登録がおすすぬ!

IDを登録するとインターネットのYAHOO!グループでMLを操作できます。登録は無料です。

▼過去のメールがすべて読めます。もちろん、そのサイトから投稿もできます。

▼メールアドレスの追加、変更ができます。

▼写真や文書を保存できる共有フォルダを利用できます。(現在はID登録をしている方が少ないので、使用していません。)

### 分からないことはヘルプ

MLから届くメールの文末には、いつもグループサイトとヘルプへのリンクがみついています。エラーなどがあった時は、まずこちらをご確認ください。

### 求む!

#### ホームページ作成作業協力者

コンテンツ充実のため、一緒に作業してくださる方を募ります。

使用ソフトはホームページビルダーです。Word、Excelができれば体得できます。関心をお持ちの方は、ぜひ事務局メールへご連絡ください。

### ★会の現勢

2013年10月1日

現在

#### ●会員

(個人会員101名)  
(団体会員3団体)

#### ●賛助会員

(個人44名)  
(団体1団体)

会の活動は皆様の会費とご寄付で支えられています。未納の方は会費納入をよろしく願います。

#### ●年会費

正会員(個人・団体) 五千元  
賛助会員一口 二千元  
(個人一口 団体五口 以上)